

2025

4

ナイル

現代短歌ナイル

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

芙貴子ワールド／松本芙貴子
偶然の糸を遊ぶ【10】

2月号作品批評／宮本史一（心の花）

涼さんのにぎわいホビ〜／橋本涼

高校生短歌特集【7】



NILE CAMPUS

310

伯梅閑話 — 夫婦別姓 —

小村井敏子（五代目神田伯梅）

二〇二四年八月二十九日の午後、宮岡博英事務所の宮岡氏が来てくださった。伯龍の残した講談本などはすでに保管していただいているが、それ以外の伯龍に関する資料がそのままになっているので、家探しして欲しいとお願ひしたのだ。録音のテープなどは聞くこともなく保存しているのをお渡しした。そのほかに、伯龍の芸人仲間の交流がわかるはがきなどが出てきた。一度では、伯龍が積んで残したもののすべてを見ることはできず、次回またということになった。そのとき、私がもらっていたマスがあると、言うど持っていてくださるということなのでお渡しした。昭和五十七年度芸術祭優秀賞、講談「小猿七之助」の話芸を受賞したときのお祝いの会で、六代目神田伯龍、千代夫人、八代目一龍齋貞山三人のサイン入りのマスだ。二人の講談師を支えた千代夫人にマスの底にサインしていただいたのだった。そのサインは、神田千代になっていた。本名なら小村井千代だが、芸名というものがわからなくなっている昨今。夫婦であるから、神田とするのがよかったのだと思う。伯龍さんではなく、神田さんと呼ばれることが普通になっているが、芸名だから、神田の流れは皆、神田なので、伯龍さん（講談師は〇〇先生なのだ）と言うべきなのだが。

私の場合は、夫婦別姓だった。夫は芸名、私は戸籍名。年賀状は夫婦別姓で並べて印刷（はじめはワープロで、のちにパソコン）していた。フルタイムで仕事をしていて昼間、私はいない。電話がかかると「はい、神田です」と伯龍が出る。相手は「間違えました」と電話を切ってしまう。それで、電話は二つにし、私の電話は留守番電話にしていた。講談のこと以外、わからない伯龍だ。私の電話に伯龍が出て話を通じない。交際期間ゼロで一緒になったので、驚くことが多かった。短歌の世界では、ペンネームや旧姓を使う方が多い。その方が気持ち自由になるのかもしれない。